

## シラバス

|      |                         |        |     |
|------|-------------------------|--------|-----|
| 科目名  | ソーシャルワーク演習Ⅴ             |        |     |
| 担当教員 | 橋本、平川、福崎、田島、隈           |        |     |
| 配当年次 | 3年次                     | 開講時期   | 2学期 |
| 単位区分 | 選択                      | 単位区分補足 |     |
| 授業形態 | 演習                      | 単位数    | 2単位 |
| 準備事項 | テキスト、配布資料を熟読してから講義に臨むこと |        |     |
| 備考   |                         |        |     |

### 【授業のねらい】

ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。また社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し倫理的な判断能力を養う。実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を行い、その意義や方法を具体的に理解する。

ロールプレイヤーといった具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とした演習を通して実践的理解を深める。

### 【授業の展開計画】

1. 地域の中で実践されている権利擁護活動を通して危機状態にある人たちへの総合的包括的支援について実践的に習得する。
2. ケース発見やインテーク場面及び過程を想定した実技指導を通して、ソーシャルワークの展開を理解する。
3. 地域アセスメントや関係性の構築場面を想定した実技指導を通して、ソーシャルワークの展開過程やアプローチについて実践的に理解する。
4. プランに基づいた支援の実際を想定した実技指導を通して、ソーシャルワークの展開過程やアプローチについて実践的に理解する。
5. 災害時といった地域における支援を必要とする人が抱える発災時の複合的な課題への総合的包括的支援について実践的に理解する。
6. 災害時といった地域における支援を必要とする人が抱える継続的複合的な課題への総合的支援について実践的に理解する。
7. アウトリーチやネットワーキング、チームアプローチの必要性と実際について学び総合的包括的に理解する。
8. ファシリテーション、プレゼンテーションの必要性と実際について学び総合的包括的に理解する。
9. 社会資源の活用や調整、開発に係る事例を通して地域の基盤整備や連携について総合的に理解する。
10. 夏季実習で体験したこと、学んだこと、考えたことをまとめ発表する。
11. 実習中に体験したスーパービジョンを振りかえり、その効果や学びについて総合的に理解する。
12. 他領域で夏季実習を行った者の体験や学びについての発表を聞く中で自身の体験と共通する点と、そうではない部分についてソーシャルワークの視点からとらえる。
13. 他領域で夏季実習を行った者の体験や学びについての発表を通して自身の学びと共通する点と、そうではない部分についてソーシャルワークの視点からとらえる。
14. 実習中の体験を基にジェネラルな視点から事例研究、事例検討を行い、支援の意義や方法を具体的に理解する。
15. 実習中の体験を基にジェネラルな視点から事例研究、事例検討を行い、実践的かつ学術的知識及び技術を習得する。

### 【履修上の注意事項】

テキスト、配布された資料は必ず持参のうえ講義に臨むこと。

積極的な受講姿勢を保つこと、教員から質問されたときは自分の受講姿勢を示す場として活用すること。

### 【評価方法】

積極的な受講態度 30%、レポートの提出とその内容 30%、評価用レポートの提出とその内容 40%

### 【テキスト】

『ソーシャルワーク演習（社会専門）』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集、中央法規出版、最新版

### 【参考文献】

適宜、指示をする。